

## 総合研究所における放射性物質の発見と今後の調査計画について

当社総合研究所（所長：植田文洋、さいたま市大宮区北袋町）におきましては、旧核燃料試験研究施設整備工事（来年3月整備完了予定）及び土壌・地下水浄化対策工事を実施中ではありますが、これと並行して、関連文書の再精査と退職者からの聞き取り調査を実施したところ、戦後間もない頃にトリウム鉱石を研究所本館床下に収納したとの伝聞情報を得ました。これをもとに本館床下を調査しましたところ、ガラス瓶21本に入った放射性物質（ガラス瓶を含めた重量約33.9kg）を去る7月15日に発見しました。

このため、緊急措置として、放射性廃棄物の保管廃棄施設として許可を得ている施設へ移動を行うとともに、本館の床下を慎重に総点検し、その結果を確認した上で、去る8月16日、文部科学省に第一報のご報告を行い、昨日、詳細をご報告致しました。

本日、文部科学省により現地の状況調査等が行なわれました。その結果は、次の通りです。

1. 放射性物質は、ガラス瓶ごとビニールに梱包した上で、クッションとともに容量200リットルのドラム缶3本に収納。それらを放射性廃棄物の保管廃棄施設として許可を得ている同研究所の施設において適切に管理している。
2. 保管廃棄施設の周辺監視区域境界における線量は0.1マイクロシーベルト/時以下であり、安全上問題のないレベルである。
3. 放射性物質があった場所に部分的に最大14,000cpm（バックグラウンドの約170倍）の表面汚染が生じており、床下全域は施錠等により立入制限している。しかし、発見場所の床下は、一般人の立入る場所ではなく、また真上の居室の床面における線量は、0.2マイクロシーベルト/時であったと推定されるため、従業員への影響はなかったものと考えられる。

当社としましては、今後の対応に関する文部科学省のご指導を得て、

1. 引き続き同研究所において、発見された放射性物質を安全に管理してまいります。
2. 発見された放射性物質の種類及び数量を特定させるとともに、放射性物質が発見された場所の汚染除去を確実に実施致します。
3. 更に、今後、研究所内に不明な放射性物質が存在することのないように、徹底的な調査を実施致します。

近隣にお住まいの皆様に対しましては、大変ご心配ご迷惑をおかけし、誠に申し訳なく存じます。

以上